

◇令和7年度「学校評価アンケート」の結果◇

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

先日実施しました令和7年度の学校評価アンケートにつきまして、ご回答いただいたデータを集計し、今年度の取組の「成果と課題」を検証しました。更に「今後の対応策」を検討しましたのでご報告いたします。

なお、生徒アンケート、保護者アンケートの結果も、「学校評価アンケート」のフォルダに入れてありますので、ご覧ください。

重点項目	令和7年度の取組についての「成果と課題」、「今後の対応策」
1 主体的に学ぶ学習者を育成するための取組の推進	<p>【成果と課題】・生徒への適切な学習指導について、校内の「一人一授業」の実施が有効であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たつじんテスト」の結果や日々の授業の状況から、生徒の学習に関する課題が明らかになった。 ・課題解決型の授業は、今後の社会を乗り切る力をつけるために有効である。 ・生徒が家庭での学習内容や時間を記録し、教員がそれを確認して個別に学習指導する取組を行った。 ・授業理解度について、生徒の肯定的回答が多いのに比べてテスト結果が低く、学力定着と進路意識の不足が課題である。 ・生徒の弱点である「言葉の力」や、基礎力強化に取り組んだが、達成度が低い。 ・基礎的な知識については、分かったつもりになっている生徒が多い。 ・自分で計画を立てて学習に取り組むことが難しい生徒に対しての指導には課題がある。 <p>【今後の対応策】・「一人一授業」の実施を念頭に、来年度は参観機会と意見交換の場を拡充したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育計画の見直しや、早期の進路説明、個別の目標設定に計画的に取り組む。 ・学びを言語化するまとめや振り返りの工夫をしたり、「一人一授業」や学びなおしの時間を設定したりして来年度の研究の柱に据えて取り組んでいきたい。 ・「言葉の力」の向上を学校教育の重点として掲げ、教育活動全体を通して基礎学力を向上させるための取組を推進していく。宿題の出し方、チェックの仕方等についての検討を行う。
2 自己実現力を高めるための取組の推進	<p>【成果と課題】・全学年でキャリア教育と生徒の自己理解の推進に取り組み、生徒が自己を深く見直す機会を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話を通して自己理解を深めるツールとして、キャリアパスポートを活用した。じぶん探究や面談時のプレゼンテーションなども有効に活用することができた。 ・全教職員で生徒指導方針の共通理解を図り、生徒一人一人の状況に応じて成長を促し、自己実現を支える生徒指導を行った。 <p>【今後の対応策】・全校あるいは各学年での活動《じぶん探究、体育祭、学期のふりかえり、職業調べ、職場体験、面談でのプレゼンテーション等》を系統的に進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深めるために有効なツールとして、今後もキャリアパスポートの活用を継続していく。
3 人権教育を通じて、多様性を認め合い、全ての生徒の能力を引き出す集団づくりの推進	<p>【成果と課題】・職員研修で、生徒一人一人の多様なニーズに応じた支援を行うことに対する意識が高まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校での研修や学級・学年活動において、人権や多様性を尊重し、よりよい人間関係・集団づくりの意識を高める取組を行った。 ・職員研修において「人権意識に関するチェックリスト」を活用し、教師としての人権意識の高揚を図った。 <p>【今後の対応策】・よりいっそうの研修や、個別のケースについての検討を充実させていく。今後も状況に応じて改善を図りながら、こうした取組を継続していく。</p>
4 社会を変えていく力の育成を目指した取組の推進	<p>【成果と課題】・昨年度の特活研の取組の成果として、合意形成力を高める話し合い活動が生徒の中に根づいていると感じる。1年生にも経験させ、少しずつ話し合い活動ができるようになってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターの活用によって、充実した学習活動を実施することができた。 ・教職員は、生徒自身ももう少し自分で考えて動けるようになってきている。 <p>【今後の対応策】・合意形成力を高める話し合い活動を、今後も大切にして積極的に推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・社会と連携しながら、3年間を見通した系統的な計画を策定し、全教職員の共通理解のもとで生徒に必要な取組を実践していきたい。 ・授業内の学習、行事や生活管理等、どのあたりから生徒に任せるか等、教員同士で共通認識を図る。
5 創造的に働ける職場環境づくりの推進	<p>【成果と課題】・生活時程の改定案を試行して放課後の時間を生み出すなど、業務改善の取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この取組について、色々な視点から心配する声や、時間の有効活用について考えるべきという声があった。 <p>【今後の対応策】・時程の変更によって生み出した時間を、有効に活用していきたい。それがよりよい教育につながっているかどうかの確認方法や、その情報を公開する方法等について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した総合的な学習の時間の計画や、各教科の年間計画策定の際に、地域人材・教材の活用の視点を持つ必要がある。状況を確認し、対応策を検討していく。